

32.くん煙法（自燃くん煙）

・殺菌剤

FRACコード	作物名	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
2	きゅうり	ロブラーくん煙剤	くん煙	収穫前日まで	4回以内	

・殺菌剤（参考農薬）

FRACコード	作物名	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
2	トマト	ロブラーくん煙剤	くん煙	収穫前日まで	3回以内	
	ミニトマト					
9	きゅうり	フルピカくん煙剤	くん煙(通常10～15時間)	収穫前日まで	4回以内	
9	いちご	フルピカくん煙剤	くん煙(通常10～15時間)	収穫前日まで	3回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 蚕毒・魚毒については、「34. 野菜類の総括注意」も参照する。

作物名	薬剤名	対象病害虫	使用量	注意事項
トマト ミニトマト	[参考農薬] ロブラーくん煙剤	菌核病 灰色かび病	くん煙室容積300～400m ³ (高さ2m、床面積150～200m ²)当り 100g(50g×2個)	1. 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤を連用しない。 2. 定植直後や幼苗、軟弱苗などの草勢の弱っている時は、薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 3. 作物がハウスの天井に触れる位に大きくなっている場合は、上方にたまつた濃煙に触れる部分に薬害を生じる恐れがあるので、使用しない。
きゅうり	ロブラーくん煙剤	灰色かび病 菌核病	くん煙室容積300～400m ³ (高さ2m、床面積150～200m ²)当り 100g(50g×2個)	1. トマト、ミニトマトの項に準ずる。
	[参考農薬] フルピカくん煙剤	灰色かび病	くん煙容積500m ³ (高さ2m、床面積250m ²) 当り50g(1錠)	1. 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤を連用しない。
いちご	[参考農薬] フルピカくん煙剤	灰色かび病 うどんこ病	くん煙容積500m ³ (床面積250m ² ×高さ2m) 当り50g(1錠)	1. 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤を連用しない。

【くん煙消毒上の注意】

- (1)くん煙を行う時は、ハウス内に隙間風が入らないように破損箇所を補修し、換気扇を止めてから行う。
- (2)ハウス内の温度が30℃以上の高温の時は、日中を避け、できるだけ夕方に処理して、翌朝に開放するようになり、その間はハウス内に入らない。
- (3)作業の都合でハウスの間口や天窓を開放する必要がある場合は、くん煙後最低2時間経ってからにする。
- (4)風の強い日は、煙が片寄る心配があるので使用を避ける。
- (5)くん煙中はハウスに入らないようにし、薬剤でカブレやすい人は管理作業を行う前に必ず保護クリームを塗る。
- (6)噴煙が直接作物にかかるないようにする。また設置場所の火災に注意する。
- (7)他剤との同時くん煙は避ける。

33. 常温煙霧法

・殺菌剤（参考農薬）

FRACコード	作物名	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	トマト	ベンレート水和剤	常温煙霧	収穫前日まで	5回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 注3) 蚊毒・魚毒については、「34. 野菜類の総括注意」も参照する

作物名	薬剤名	対象病害虫	使用量 (10a当たり)	注意事項
トマト	[参考農薬] ベンレート水和剤	灰色かび病	薬剤 150 g 水 5 ℥	1. 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。 2. 防除効果が低い場合は、耐性菌の発生が疑われる所以、他系統の散布剤による防除に切り替える。

【常温煙霧消毒上の注意】

- (1) 常温煙霧装置の選定、使用に当っては病害虫防除所、農業農村支援センター等の関係機関の指導を受ける。
- (2) 常温煙霧機の吹出し口付近では、ビニール等で作物を覆い、直接薬液がかからないようにする。
- (3) 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉する。